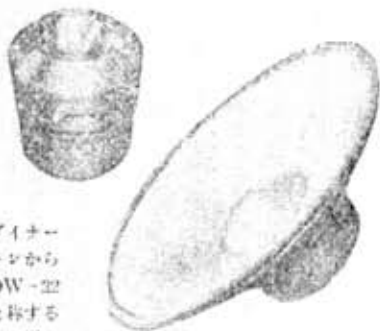


新製品紹介

ダイナトーンの22"ウーファーとホーン・トゥイーター



ダイナトーンからDW-22と称する大口径ウーファーが発売された。再生周波数30c/s-600c/s。VC 8Ωの本格的ウーファー。またDT-30ホーン・トゥイーターも同時発売。平頂状フラット・ダイアフラムを使用。周波数3500-16000c/s。ホーンカットオフ3kc。VC 5Ω。指向特性10kcで±47°

(丸山無線)

ホーム TP-5 型テレコ

ホーム・テレコで有名な電製堂(神戸小川町2-3)はTP-5型を発売。リモコンのメカを持ち、ソク・フラッターは0.3%以下。早送り巻きもどしができる。デュアルヘッドで特長は50-10000c/s。完全キット24500円。の値。メカニズム・キット12650円がある。消去は文章専用。



アイワのリボン PU

アイワは近く音国最初のリボンPUを発売。特

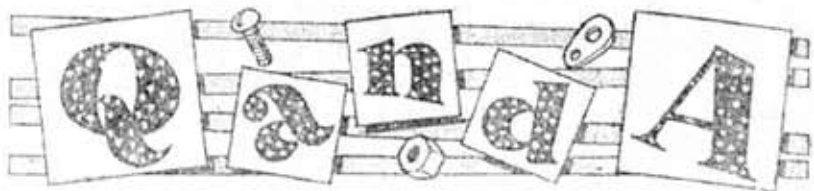


長はメカニカル・インピーダンスが極めて低いこと。フレンジ30-20000c/s。針圧2-3gr(LP専用)出力-55db出力インピーダンス30kΩ。(愛知電機KK)

オリオンの2way PU



セーフ電機KK(船橋市小栗原町2-524)よりXtal型の2wayPUが発売された。フレンジ30-15000c/s。出力はLP 0.4V(1kc/29mm)SP 0.8V(1kc/75mm)。針圧6-15gr可変。+フレンジング・エラー±2.5°以内となっておりモデル・ナンバーLS-600。



ハガキで直接解答のなかからの質疑応答のページ

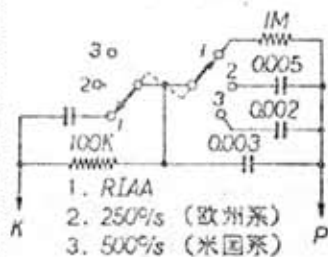
SPのイコライザー増設

(豊島区 沼田新一)

Q 1955年7月号P.48に「本格的なLP再生装置」, プリアンプのところで12AX7初段に、イコライザーはNFタイプでRIAAカーブに固定してありますが、これに切換スイッチをつけて、RIAAとSPに使用したいと思ひます。その配線のしかたを教えてください。

(佐世保市福田繁)

Ans. もっとも簡単な方法は、ロー



第1図 等化回路の定数

も、以前の欧州系(HMVなど)、米国系(コロムビアなど)のもの、最近の欧州と米国系のもの、それぞれ異なるあります。もっとも、最近のものはほとんどがRIAAカーブと、トーン・コントロールによって等化できますから、以前のSP2種だけを第1図に示します。(瀬川多樹)

広帯域オシロについて

Q 1955年7月号P.92の「テレビのサービス用……広帯域オシロの構造」について。

1. 垂直アンプの12AT7-GE間の500kΩVRは何の役をしますか。またその調整法は、
2. T-66GTカソードの5kΩBVRの働きと調整法、
3. P.92の図面よりヒントを得て

製作しようと思ひますが、この図では広帯域増巾に特別に設計されていないようです。たゞプッシュプルにアウトプット・チューブをしたにすぎません。水平増巾とスィープは、このまゝでよいと思ひますが、垂直増巾を広帯域増巾にするには、どこを改造(例えばビーキング回路を入れるとか)したらよいでしょうか、また、その調整法を教えてください。

Ans. 1. あなたのいわれるのは、10kΩのB型VRのことでしょう。12AT7はカソード結合のPPで、下半分はグリッド接地型です。上半分は普通の通り抵抗結合で3KP1の偏向板にかかっていますが、カソードの2kΩで下半分にシグナルを与え(つまりカソード・フォロワー結合です)下半分は、このカソードにももらったシグナルを、プレートから抵抗結合で3KP1の偏向板に与えているのです。下半分のグリッドは、AC的にアースされているので、このグリッドに直流電圧を与えてプレート電流をコントロールし、位置変化をします。

2. T-66G-GTのカソードの5kΩB型VRは、バイアスを変化するもので、適正バイアス点を見つけたあとは固定します。

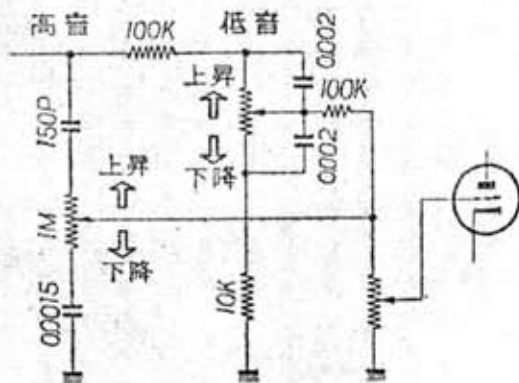
3. 本回路はP.93の第2表、CES、TR-5の規格に合格するもので、現に松下電器から発売されているものです。垂直軸は、広帯域アンプであることに間違いありません。5月号の中川講座をよくお読みになればわかるはずですが、ビーキング・コイルなど、入れなくて済めばこれにこしたことはないのです。(解答 編集部)

トーン・コントロールについて

Q トーン・コントロールはいろいろありまして、ボリュームを使用した回路が一番多くみられますが、高音、低音のフラットの位置と、何dbの見方を教えてください。(第2図)(高知県 和田万三)

Ans. 回路の各抵抗、コンデンサーの値が正しいものであるとすると、VRの中間位置でフラットになるはず

第2図 トーン・コントロールVRのフラット



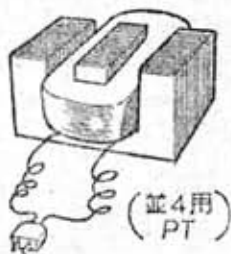
ラジオ技術

になるような位置です。BカーブのVRでは、150°回転した点がFL(フラット・ライン)になりますが、A、C、GカーブのVRでは、またその位置は変わります。

±何dbかの見分けは実測してみないと何ともいえません。フラットといっても実際問題として、高音部と低音部との干渉があって、小さな波をうつことがあるので、VRの位置だけで(測定なしに)決定する訳には行きません。TCの本来の目的からいって、何db上昇の点、下降の点と、はっきりしなくともよいのではないのでしょうか。

テレコのトラブル

Q 調整と故障修理(増刊11集)中山本春夫氏の「私にもマグネコダーが作れる」P.97,トラブルの項でザーという雑音はヘッドの帯磁が原因で25図の消磁器を用いるとよい、とありますが、これの製作法または購入法を教えてください。



第3図 簡易消磁器

また消去を直流バイアスにしたときこの種の雑音はあり得ることでしょうか、その対策を教えてください。

(渋谷区 山本博)

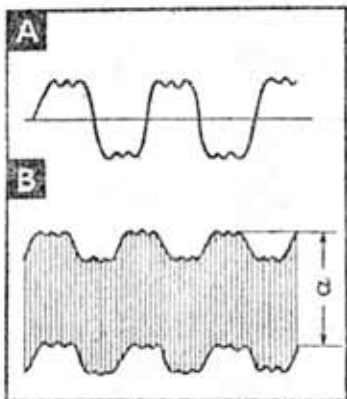
Ans. 消磁器とは、磁性体(この場合は磁性を帯びたヘッドですが)に十分なフラックス(磁束)を与えて一度正負に飽和させ、順次消磁器を遠のかせてヒステリシス・ループを減少させ最後には磁気的中心点にもってくるものです。したがって十分強いフラックスを出すのが必要であって、この点一般のPTなりCH類はリーケイジ・フラックスのないように設計されていますから、片側のコアを取去り、リーケイジを増やすことにより、消磁器とすることができます。

つまり第3図のように取去ったコアの接合面から、多量のマグネチック・フラックスがでるわけですから、このタイプですとテープ自体も一度に消磁できて便利です。直流バイアスは、雑音が残りますから、感心できません。

なお本号130ページの記事は参考になると存じます。(解答 編集部)

混変調波形の疑問?

Q フ技増刊第7集、P.85の回路図をもとにして自作CRオシレーター



第4図 IMテストでこんな波形になる

4000c/sと60c/sとを混合して混変調の測定をしたのですが、ハイパス・フィルターをAC60c/sが通ると第4図のような波形になり、混変調の原波形をハイパス・フィルターを通してオシロでみると第4図Bのようなになるので、アンプの歪を正確に測りにくいのですが、その除去法はどうす

ればよいのでしょうか。また第4図の寸法を測れば誤差はなくなりますか(ハイパス・フィルターの定数は同じくP.85,第9図による)。

たどしハイパス・フィルターのCR中、Cの容量は測定していませんが、ほかのものと取りかえても変化なく、リーケイジもなし、Rはテスターで確認済みです。(京都市 安見篤)

Ans. これは、オシレーターのハムが原因だと思えます。あのような波形になるのは、ハムがでているからです。対策として、

1. ヒーター・ハムを少なくするように、アースの位置、またはハム・バランスでハムの少なくなる点を見つけてください。
2. B電源のフィルターが完全でない場合にもハムを生じますから、フィルター・コンデンサーを入れて試してみるとよいでしょう。(解答 編集部)

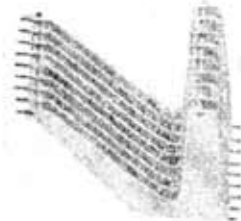
直結回路のバイアス電圧

Q 1955年7月号P.46、「ロー・コスト6V6PPアンプ」を回路図どうりに組み立て、いろいろ調整してみたのですが、記事どうりになりません。パワー・トランスのBは400V×2, 180mAで、整流管は5GK4, 30H150mAのチョークと1kΩのフィールド・コイルを通して6V6のプレートに供給しています。FCをでたところの電圧は385V, 6V6の各プレートあたり370V, 39mAです。さらに1kΩを通ったところの電圧は340Vとなり、以下は回路図通りです。

トラブルというのは直結回路で、バイアス電圧が0.5Vしかできません。前段の6AV6の負荷500kΩカソード3kΩにして、この状態です。以前6V6Sの4段増幅アンプに使用して異状のなかった球に差しかえても同じこ



ハーク音響レンズ



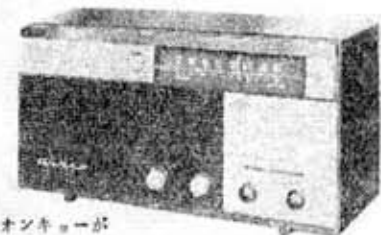
本製品は超指向音響レンズで、このレンズをスピーカー前面につけることにより高音域の指向特性が改善される。このためSP前面の任意の位置で聴取しても、殆んど均一の音響である。小室内にて多数のレコード鑑賞も可能となる。詳細は、台東区谷中初音町4-166 日本ハーフKK社。

フォスター 新製品2種



小型スピーカーを市場に多種類おくりだしている。フォスターSP(製造音響KK 中野区新井町658)では、今回6.5" P-65C型、および横山コーン6"×9"のE-609B型の2種を発表した。VCはいずれも3-3.5Ω, OPTには7k, 5k, 2.5kΩのタップがある。

オンキョー Hi-Fi ラジオ



オンキョーがHi-FiスーパーOS-63型を発売した。これはオンキョーHi-Fi SP, 可変帯域IFT, 3段階トーン・コントロール, マジックアイ付でキャビは桜材と前面にガラスチロールを配した近代的デザイン。大きさ620×278×223mm。

ラックSPキット

車載電機KK(板橋区板橋1-2527)よりSP組立キットが発売された。これはアマチュアの喜びは製作にありというわけで、実際の理論と製作をわかりやすく説明したパンフレットつき。フリー・エッジもフックアップ型も原のまゝ。

